

2016. 1. 23 発達障がいを知る講演会を開催

上下に線を入れると読める

発達障がい児の3人の保護者の講演から

・治らないものを「障がい」という。

発達障がいは4対1で男子の方が多い。

我が子は、幼少時に言葉が遅かった。毎日同じ英語のビデオを見続けるなどこだわりが強かった。悩むことはいくつもあるが、例えば「大人」に振り仮名をどう打つのか、「大」が「お」なのか、長い間悩んでいたことがあった。

・アスペルガーの子は、感覚統合の問題で、心と体と頭がバラバラな時がある。ハードル走はとても困る。「走る」と「跳ぶ」を同時にできない。2次障害もあって、本人は激しく葛藤して生活している。高機能自閉症の子は、幼稚園ではどこかへ行ってしまうというので、先生が腕をつかんでいた。すると自分でクールダウンできないので、激しく暴れるようなことがあった。今、声掛けを変えて、自分でクールダウンができるよう心掛けている。

手探りでいろいろな方法を試している。虐待ととらえないで見守ってほしい。

・我が子は、就労している。

「我がまま、しつけができていない、努力が足りない」という見方をしないで障がいだと理解してほしい。

統計的に2人クラスは障がい児がいることになる。

障がいの種類の境界は明確ではない。

これらの障がいのある人の中には、歴史に残る偉大な業績を残している人が多数いる。エジソン・アインシュタイン・ビル・ゲイツ等 **誰にも頼らないことは自立ではない。自立とは依存先を増やすこと**



講演会参加者から、3人の講演者へメッセージ

- ・2人ともに一生懸命子育てされていることが、実によくわかりました。子どもは一人一人個性があり、その部分を育て伸ばしてやるのが大切ですね。
- ・牛丸さん 「Help me が言えること」を教わりました。
- ・今日質問された方に応援します。勇気をもって、地域で協力しましょう。
- ・同じつつじが丘にて、よき理解者になりたいです。
- ・親さんはいろいろご苦労があり、勉強もよくされていると感心しました。これからも地域の発達障がい児のことを発信してほしいです。
- ・自分にできることがあれば応援させてもらいたいです。
- ・地域での理解を深める継続的な活動が必要と感じました。
- ・我が子も発達障がいで、福祉の里にて支援を受けています。これからの我が子への接し方の参考になりました。
- ・具体的な事例を教えてください、良く理解できたので、今後の対応、行動に役立つと思います。大変ですが、今後も教えてくださいと思います。

私たち周囲の大人が変わるように。

